

大学生を活用した部活動地域移行に関する研究

1250434 木下祐寿

指導教員 前田和範

研究背景

教員の負担減を主の目的として開始された部活動改革により、部活動の地域移行が進められているが、指導員不足の問題により移行実施率は低い状況である。学生指導員として大学生を活用した指導員不足の問題解決は議論されてきたが、これまでの報告では、大学生が実際に指導を行う上での効果や、問題点、指導にあたる大学生自身のメリットとデメリットは詳細に検討されていない。

研究目的

本研究は、大学生が部活動指導する効果と問題点、指導する大学生のメリットとデメリットを詳細に検討し、部活動地域移行問題に対する人材の受け皿としての大学生活用の可能性を検討する。

研究方法

学生のスポーツ指導に対する意識調査として、高知工科大学、高知リハビリテーション専門職大学、龍馬学園の学生 218 名に対し、アンケート調査を実施した。

分析結果

大学生が部活動指導を受けた際には、「親しみやすさ」という効果があげられる一方、「指導力不足」という不満の声も多くあがった。大学生が指導をする場合、自身の「スキルアップ」に期待が持てる一方で、「指導に自信がない」ため、部活動指導に興味が無い大学生も多いことがわかった。指導に興味が有る大学生の中で、現在の部活動やサークルへの所属状況による顕著な差はないこともわかった。

考察・結論

学生指導者が指導する際と、大学生が部活動指導に興味が持たない理由に「指導力」が大きな影響を与えていることがわかった。だが、指導に興味が有る大学生が部活動指導に妥当な時間である三時間以上の余暇時間要していること、部活動やサークルに所属していない大学生も興味を持っていることが分かった。よって、中学校・高校の受け入れ体制の構築や、大学生が気軽に受けやすいオンデマンドでの指導力育成カリキュラムなどの導入で、部活動地域移行における学生指導者の活用は期待できるものと結論付けた。